

## 第47回 戦後80年を迎えて（広報まつぎき 令和7年11月号掲載）

2025年は、1945年の日本の降伏から80年が経過する年です。この節目は、戦争の戦禍を忘れず、平和の重要性を再認識する機会となります。

石破前総理大臣が先月10日に、戦後80年の「首相所感」を発表しました。なぜ日本が無謀な戦争へ走ったのか、改めて今、反省すべきを反省し、これからの日本がどうあるべきか、考える機会を頂いたと思います。所感の中で石破前総理は、「過去を直視する勇気と誠実さ、他者の主張にも謙虚に耳を傾ける寛容さを持った本来のリベラリズム、健全で強靱な民主主義が何よりも大切です」また、「戦争の記憶を持っている人々の数が年々少なくなり、記憶の風化が危ぶまれている今だからこそ、若い世代も含め、国民一人一人が先の大戦や平和のありようについて能動的に考え、将来に生かしていくことで、平和国家としての礎が一層強化されていくものと信じます」と述べています。

今の日本にとって必要なことは、歴史に正面から向き合い、改めて先の大戦を学ぶことによって、明るい未来を開くことにつながると思います。未来の松崎のために、学び続けることの大切さを実感しました。